



東日本大震災で被災された皆様へ、一日にも早い復興を心からお祈り申し上げます。

＜仲間の話＞

私は 36 歳、家族は夫と子供が 3 人。

私がパチンコと出会ったのは高校 3 年の時でした。当時付き合っていた彼 (今の夫) がパチンコを教えてくださいました。勿論、年齢的に行ってはいけない所という事は知っていました。



うるさいし、面白くありませんでした。働くようになり仕事仲間がパチンコに誘ってくるようになり、週に 2~3 回行きました。それから半年もしないうちに、時間があればスロット…給料を使い果たしてまでも通い、借金をするようになり、親のお金や、ヤミ金にも手をだしました。6 年前に結婚、夫の貯金があったのでヤミ金の借金を返済。カードローンは過払い金の申請をしたので十数万戻ってきました。そしてまた、スロットの日々でした。子供ができて出産までスロット台の前にいました。

出産 5 ヶ月後位から子供を託児所に預けほぼ毎日スロットへ…、二人目の子供のときも同じでした。何度か夫にバレ、そのたびに『もう行きません』と頭をさげました。自分でも『もうやめよう』と思い、月に一度実家に帰って育児のリフレッシュをしたりしました。でも、続きませんでした。二人の子供を託児所に預けスロットへ…生活費にも手をつけるようになりました。毎月赤字でした。三人目が授かり、妊娠 7 ヶ月、いつものように託児所に子供を預けスロットにいこうとしたら、夫からの電話で『通帳の残高が数千円しかない！すぐ家に戻れ！』と怒りの声でした。託児所に戻って子供をつれて家へ帰りました。『お前は病気だ！』と言われ、私は『病気かも』と言いました。夫はすぐ精神科を探し、私は病院に連れて行かれました。すべてを話し、『ヌジュミ』を紹介してもらいました。数日後、ギャンブル依存症の施設『ヌジュミ』に夫と行きました。そこには沢山の女性がいる、私もその輪に入り、自分がギャンブルにハマった経緯を話しました。誰かが否定や賛成するわけでもなく、話をし、話を聞く。そして分かち合う。帰り路は、なにかスッキリした気分になりました。私は出産まで週 3 回通所しました。ある日、家を出る時、長男 (3 歳) が『いい子にするから行かないで』と泣きながら引き留められました。『ごめんね。ママがんばるから』と子供に誓い通所しました。3 人目を出産し、再び、通所をはじめ、現在に至っています。

読売新聞に掲載されました。

# 女性のギャンブル依存症

# 社会復帰 NPOが支援



体験談を語りあふ参加者。奥は田上さん(保土ヶ谷区のヌジュミ)

ギャンブル依存症に悩む女性の社会復帰を支援するNPO法人「ヌジュミ」(横浜市保土ヶ谷区)が12月、同区内の新しい施設に移るようになった。厚生労働省研究班の調査(2009年)では、男性の9・6%、女性の1・4%がギャンブル依存症とされており、同法人を主宰する田上善子さん(62)は「誰にも言えず苦しい思いをしている女性がなくさんいる。気軽に連絡をとってほしい」と呼びかけている。

## 横浜「ヌジュミ」12月、新施設へ

「ヌジュミ」とは、仲間の方で「希望」を意味する。ギャンブル依存症を克服した田上さんが「女性が気兼ねなく通える施設が必要」と考え、2007年4月、横浜市保土ヶ谷区のマンションの一室に開所した。ギャンブル依存症に悩む女性がほぼ毎日集まって、それぞれの経験を語り合う。これまでに、8人が社会復帰を果たした。

「ヌジュミ」とは、仲間の方で「希望」を意味する。ギャンブル依存症を克服した田上さんが「女性が気兼ねなく通える施設が必要」と考え、2007年4月、横浜市保土ヶ谷区のマンションの一室に開所した。ギャンブル依存症に悩む女性がほぼ毎日集まって、それぞれの経験を語り合う。これまでに、8人が社会復帰を果たした。

田上さんによると、精神科や心療内科で診察している病状も少なくないが、一人で常駐しているが、新設では、経理担当も含め3人体制になる。田上さんは「ギャンブルをやっているのは自分ひとりで、気が済むまで、ゆっくり一緒に泊まっていきたい」と話す。ヌジュミの所在地は公表しておらず、問い合わせの電話は045・743・58854か08・0・6011・7526。

## 15年で500万円、自殺未遂

「ギャンブルを始めたのは30歳くらい。まさかここまでまよってしまう」。8月下旬の「ヌジュミ」女性50人が、数人の女性を前に、静かに話し始めた。

「当時付き合い合っていた男性が無類のギャンブル好きで、アートの持ち合わせ場所もスロット店、次節に一人で行くようになり、気付くとストレスを発散できる唯一の場所になっていた」

賭け事に金を使うことが、心の隙間を埋めるような錯覚に陥り、消費者金融から金を借りてはスロットに投入。ついには友人をだまして金を工面するようになり、気付くと15年間で約7000万円をギャンブルにつきまわっている。

## 50歳 経験語り「心を整理」

「私なんて生きる価値があるのだろうか」と思い悩んだ末、大量の睡眠薬と精神安定剤をビールで飲み、3日間生死の境をさまよったこともある。自殺未遂は3回に及んだ。3年前の4月、「このままではいけない」と、わりにもすがらないで駆け込んだのが「ヌジュミ」。初めは自分の経験を語ることに抵抗があったが、依存症の当事者でもある田上さんや、同じ悩みをもつ女性と知り合い、内面を吐露するうちに、「自然と心が整理されていった」という。その後、同度から再発したが、今はギャンブルから離れて半年以上になる。

私の家族がいつでも読める場所にある、「相田みつをさんの目めぐり」に「めぐりあい あなたにめぐり あえてほんとうに よかった ひとりでもいい ここ

ろから そういつてくれる ひとがあれば」とありました。私は約ふた昔前、私自身の存在自体を否定していて、消えてしまいたいと本気で考えていました。しでかした過去のことへの後悔と明日からの不安で身動きできない状態だった私が「依存症の施設」に通っていた時、心に響き覚えている言葉があります。それは「あなたが生きていてだけで他の人の役に立っているんだよ」でした。こんな私でも他の人の役立っているの？それなら私もできるかもしれないと、かすに希望を抱いたことを相田みつをさんの詩を読んで思い出しました。

何回も借金を周囲の人が補てんしても、ギャンブルがやめられない人に「意志が弱いからだ」、「意志と根性を使ってやめられるはずだ」と説教してやめられるものなら、もうとっくにやめられたはずです。本人は、本気で「今度こそやめよう」と思う。だけど隠れて繰り返しギャンブルをやっている人は、一人ではやめられないんです。それは心身ともに病気（病気の意志と根性を使うからまた始めてしまうのです）にかかっているからだとは私は考えています。ギャンブルをするのが当たり前になっている女性にとって、ギャンブルをやらない心身ともに健康的な意志と根性、思考や行動に変えていただくには時間を必要とします。

ヌジュミは当事者サポート（ピアサポート）ですから、女性たちの気持ちはよくわかります。私たちではできないことは、行政・医療機関・司法・他の施設などとネットワークを組み相談しながら、本人の回復にとって最良の方法を提供しています。

ヌジョミは今年中に横浜市の補助金をいただく施設になります。多くの方々に支えられ、試行錯誤をしながら、準備期間と開設を含めて7年目です。10月には新たに当事者スタッフになってくださる女性と一緒に働くことになり、私一人で利用してくださる女性たちのサポートや実務処理をしなくても良くなります。

読売新聞が取材をしてくださってから、知り合いや家族、関係機関の方々が新聞記事を読んで、ご案内くださる女性たちが来所し始めています。横浜市が「ギャンブル依存症」の回復施設に補助してくださるようになり、社会的にも認められることになることが、国内の同病者が助かることへつながることを願って、本開所に向けて準備を進めていきます。

**が、法人の運営資金のご支援なくしては実現しません。今後とも、ご支援のほどよろしく願いいたします。**

施設長 田上啓子



	電話相談	メッセージ	取材
7月	6件	2箇所	0
8月	6件	2か所	1社
9月	18件	3か所	2社

女性	面接	関係者	利用者
7月	1名	1名	9名
8月	1名	0名	11名
9月	5名	0名	15名

編集後記：3ヶ月以上の猛暑だった夏も終わり、しのぎやすく日が暮れるのが短くなりました。慣れない不動産屋や行政への書類書きにも目安がつきあと一息です。法律内（自立支援法）施設への移行を考え始めて「やるべきです。お手伝いします」と応援して下さった支援の方たちは約束通り助けてくれています。10月の初めからヌジュミを修了されて社会で働かれていましたが、スタッフをしてくださいます。同じくOBや自助グループの女性たちも開設後には司会で助けてくださることになっていますので心強いです。難問だらけですが、できることを一つ一つやらせていただいています。家族から心配もあり、一段落したら人間ドックで検診し安心してサポートに専念したいです。体を丈夫に産んでくださった亡き両親に感謝です。K

### HELP ME! **ヌジュミを続けさせてください!**

回復施設事業の組織を安定運営にするために、ぜひとも、ボランティアでのご協力を、お願い致します。

- \* 苦しんでいる人に来てもらうために「どうしたらメッセージが届くのか」を一緒に考えてくださる方
- \* 経理を担当していただける方
- \* 社会啓発の企画、実践してくださる方

